



昨年に続きコロナの感染症に翻弄された一年でしたが、早いもので師走を迎え、2学期も来週1週間となりました。デルタ株の猛威の中にスタートした2学期でしたが、幸いクラスター等の発生も無く、また、10月頃からの感染者の減少の中、様々な行事も実施することができ充実した2学期にすることができました。これもひとえにご家庭や地域の方々のお陰と感謝申し上げます。来る2022年もウィズコロナでの生活は続くと思われませんが、引き続きご協力をいただきますようお願いいたします。

一人1台 タブレット導入から1年・・・

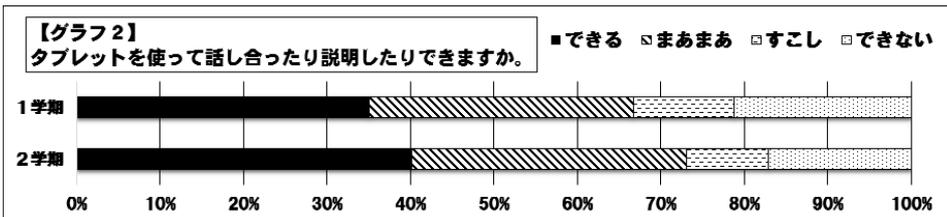
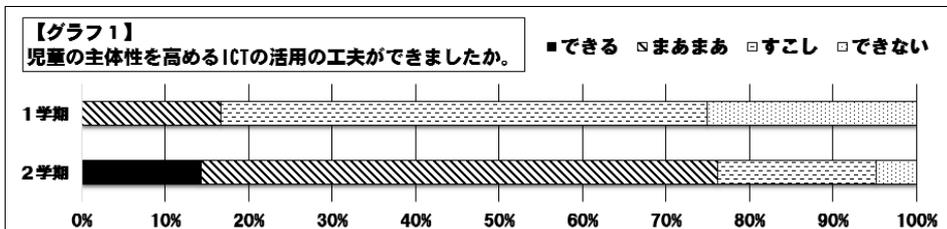


町から一人1台のタブレットが児童生徒に配付されて、今月でちょうど1年となります。昨年の今頃は本校でも、「どう操作すれば?」「授業でどのように活用しよう?」「情報モラルは守れるか?」「家庭への持ち帰りは?」「破損したら?」・・・等々、様々な課題に直面していたことを思い出します。あれから1年、まだまだ課題はありますが、タブレット導入の効果も少しずつ享受できた1年目だったように感じます。近日配付される予定の本校のPTA広報に詳細な記事がありますが、現在では各学級で様々な学習活動に生かすことができるようになりました。ドリルパークを使つての計算や漢字等の習熟はもちろん、調べ学習や画像の撮影、友達や先生との意見交換、あるいは楽器としての活用など、活用の幅がどんどん広がってきています。下の【グラフ1】は本校職員の意識調査の結果ですが、タブレットを活用して子供たちに主体的に学習をさせたいと一人一人の職員が頑張ってきたようです。学校だよりで自校の職員を褒めるのは・・・とも思いますが、「教職員の多忙化」や、それぞれの職員の得手不得手等もある訳ですが、職員同士で教え合い、学び合いながらスキルアップを図ってくれています。その効果もあつてか、【グラフ2】の児童のアンケートでは、「タブレットを使って話し合ったり説明したりできますか」の問いに、肯定的な回答をする子供が増えてきました。タブレットを活用することで、学習への関心・意欲を高めたり、友達と意見を交流する幅が広がったりなど、視覚的な情報が増えたことで学習の理解がより深まっていくことにも繋がっていると感じます。

また今年も、教育活動やPTA活動においても、コロナ禍の中、タブレットのお陰でリモートによる学校行事や懇談会・会議等も実施することができました。今となつては、もしタブレットの配付が無かつたらと・・・想像し難いところです。

今後さらに活用の幅が広がっていくと思いますが、各ご家庭

のご協力のもとに情報モラルには十分留意していきたいと思つています。また、タブレットの活用が「目的」ではなく、学習をより効果的に進めるための「手段」であることも再度確認し、「この活動にタブレットが必要か」「どんな活用の仕方が効果的か」なども含めて、さらに学校全体で勉強していく予定にしています。



読書 がんばってます!

11月16日から12月3日までは、校内の読書週間でした。各学級担任や図書委員からの呼びかけもあり、いつもに比べ休みに図書室を訪れる児童も多かったように感じました。単純に量的な比較や優劣はつけられませんが、集計の結果、低学年部では1年2組(162冊)、中学年部では3年1組(178冊)、高学年部では6年2組(103冊)が貸出冊数のトップでした。11月末現在、全校の貸出冊数は約1万冊を超えたところです。

今年も、各学年の国語の教科書に載っている作品の関連図書(例えば同じ作者の物語等)を全学年で整備したり、新しい書籍を購入したりするなど図書の充実も進めています。ぜひ、冬休みもそれぞれの子供たちに読書に親しんでほしいと思つています。